

# グリーンサークル 45号

クローズアップ  
活動団体紹介  
講座紹介  
多摩市みどりのかわら版

松村 正治  
森木会 亀ヶ谷緑地班  
クリスマスリース材料配布会  
會田 勝康

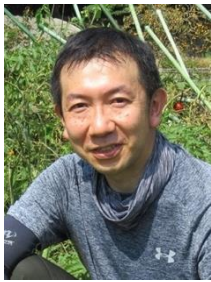


タマノカンアオイ

～クローズアップ～

## 多摩丘陵の里山を生かす仕事へ

NPO 法人よこはま里山研究所 (NORA) 理事長  
moridas (モリダス) 代表理事 松村 正治



松村 正治さん

私は多摩ニュータウン開発が始まった頃の1969年に生まれました。3歳から町田市内の住宅地で暮らしていましたが、70年代までは周辺に田んぼや畑、雑木林がかなり残っていて、母は市内の農家から野菜を、養鶏家から卵を購入していました。しかし、そう

した里山環境は次第に大規模団地や新興住宅地として開発され、昭和が終わった頃には、幼少期に遊んだ雑木林や谷戸は消えてなくなりました。

時代とともに変化した風景をどこか気にしながら20代後半になり、私は会社を辞めて大学院に入学し、複数の環境活動団体に所属して、都市近郊の里山をまもる社会の仕組みやあり方について調査研究を始めました。高度成長期以降の里山では、人びとによる働きかけが希薄になるというアンダーユース（過少利用）が問題となっています。この問題に対して、1990年代～2000年代には市民ボランティアが管理活動に参加する里山保全運動が全国に波及しました。この運動は核となる全国的な組織が主導したわけではなく、身近な地域の里山を守るために有志が各地でみずから汗を流して保全活動に参加した結果、大きなムーブメントになったのです。2000年代頃からは、自治体が里山保全ボランティアを養成して、手入れを必要とする緑地とつなぐ制度も全国に広がりました。

しかし、そうした取り組みによって保全される里山は、管理されなくなった広大な里山の面積と比較するとわずかでしかありません。さらに、2010年代に差し掛かる頃から、保全活動への参加者の固定化・高齢化が大きな問題となってきました。里山保全のためにボランティアを活用するという制度には、限界があったと言ってよいでしょう。一方、高齢化するボランティア活動を尻目に、2010年代以降の里山では里山資本主

義という言葉に象徴されるように、企業のCSRや環境ビジネスなどと結びつけて、里山の資源や空間をいかして経済活動をつくらうとする動きが強まってきました。

このような時代に、あらためて里山の自然や文化を保護するとともに創造するためには、仕事づくりが必要だと思います。哲学者の内山節は、村人の労働に2種類あることに気づき、稼ぎとはお金のために労働すること、仕事は地域の自然・社会と自分たちの暮らしを維持する人間的な営みであると整理しました。経済成長を追い求めた時代、里山は稼ぎの観点からいったん見捨てられました。その里山で経済活動を再生するならば、稼ぎ偏重の価値観に転換を迫るような仕事をつくりたいと考えています。

私は2005年からNPO法人よこはま里山研究所の理事長を務めてきましたが、近年になって里山での仕事づくりをイメージして立ち上げた団体に moridas (モリダス) があります。この団体は、安全で楽しく価値ある里山保全・森づくり活動をすすめていくにはリーダーの養成が重要だと考えて、2018年に横浜と多摩のメンバーで立ち上げました。団体名は「森づくりのリーダーを出す」という意味で、具体的にはリーダー養成のための研修やその必要性について情報発信しています。活動を通して、里山保全活動のリーダーとして優れた技術・技能を修得した人に対し、適正な対価が支払われるような社会にしたいと考えています。

今後、多摩丘陵の里山保全活動を実践されている多くの方々につながって活動を広げたいと願っていますので、ぜひ下記ウェブサイトをご覧ください。

里山保全活動において、あらゆる角度からさまざまな研修を行っております。自己研鑽にぜひお役立てください。

NPO 法人よこはま里山研究所 [nora-yokohama.org](http://nora-yokohama.org)  
moridas (モリダス) [moridas.net](http://moridas.net)  
松村正治 [marrmur.com](http://marrmur.com)



野外体験活動における安全管理とコミュニケーション研修



森づくりレベルアップ研修

## ～活動団体紹介～

### 私と森木会

森木会 亀ヶ谷緑地班 東田 紘

わたくしは、昭和 51 年 12 月に多摩市に越してきました。土いじりがしたくて、土地を購入し戸建てを新築しました。「よこやまの道」の近くでしたので（永山 6 丁目）よく散歩をしていました。散歩中に丸いどんぐりをひろい、我が家の記念樹（クヌギ）と思い庭に埋めました。

ある日、散歩をしていると、アズマネザサが刈り取られて、歩きやすくなっていました。誰が刈ったのだろうと思い、作業をしている人に話しかけました。これぞ、「森木会よこやまの道班」の方でした。里山の管理もしていると聞き、一緒に活動してみたいと思いました。これが森木会との関わりでした。もう 15～17 年前のことです。

当時、多摩市の広報誌で初級講座第 10 期の募集をしていたため応募し、全 10 回の講座を難なく突破！

その後森木会に入会し、翌年中級講座も落第しないで卒業後、森木会亀ヶ谷緑地班に配属。集まってみてびっくり！第 10 期の卒業生が 7 名もいて、気心の知れた仲間と楽しく作業をすることが出来ました。

亀ヶ谷緑地班はグリーンライブセンターから近く、作業が終わると顔を出していました。ここで、フレンドツリーサポーターズが富士見町でカラマツを伐倒している話を聞き、翌年より参加、毎回カラマツを 10 本前後切らせてもらいました。ここで改めて、フレンドツリーサポーターズの方々から伐倒の方法を教えてもらいました。この年は、八ヶ岳の活動に 5 回全部参加しました。伐倒がすっかり面白くなってしまったが、でも キケンもある作業だな！と思いました。木の重量は、細いから太いまで、200kg から 1500kg はあるかなあ！これにつぶされたら、ひとたまりもない！

モンスターをコントロールして、きちんとした仕事がしたい！と感じるようになりました。

こんな時事務局より、外部講座「チェーンソー研修会（実技編）」開催の話を知りました。森木会からもすでに 2 名の参加が決まっており、埼玉県秩父市山逢の里キャンプ場で行なわれた 2 泊 3 日の研修会に私も参加しました。

\*研修内容

- ①チェーンソーの点検
- ②ソーチェーンの目立て
- ③チェーンソーワーク
- ④安全伐採のための実践ロープワーク
- ⑤仮装立木の受け口、追い口作り
- ⑥中径木の安全伐採

この研修会で身に付けたこと

- (a) 受け口 斜めカット（30 度～60 度）60 度にする  
と、水平カットが見やすい。直径の 1/4(1/3 まで)。横切りは水平に入れる。交線は一直線。
- (b) 追い口 直径の 1/2 までチェーンソーで切り、ロープをひく、クサビを打ち込む。倒れない時は、手鋸でツルを切ってゆく。（受け口の直線と並行になっていることを確認する。）

この講座を受講することで、さらに安全に伐倒することに自信がつかしました。

ところで、我が家の記念樹（クヌギ）も 45 年、大きく育って、高さ 17m、基部径約 500mm になり、近所から落ち葉が積もると苦情が出て、伐倒を考えました。毎年葉があるうちに枝おろしを行い、5 年かかって地際までカットしました。

樹木は安全に伐倒しましょうね！



## ～講座クローズアップ～

## リース作り

森木会 リース作りグループ 桜井 悦子

森木会活動 10 周年記念行事の企画で始まったリース作りも、多くの方のご協力で回を重ねて参りました。市内公園、雑木林などから 1 年がかりで材料を集め加工して、参加される方々へ提供しています。

コロナの流行で一昨年、昨年と残念ながら講座を開催できず材料を配付する形をとっています。

講座では参加される方々との造り上げた作品を直接目にすることが出来る楽しみがあります。材料配布会は各自が持ち帰った材料を活かしきれているのかなあ、作り上げる過程を楽しんでもらえたのだろうかなどと、直接皆様の反応を知ることが難しく、提供する側としては一抹の不安はあります。

材料も回を重ねてマンネリ化しないように、何か一つでも新しいものを取り入れられるよう考えています。

材料もこれは使えるかな、数が揃えられるかを考えます。日頃の散歩中、あれこれ材料になりそうな物はチェックします。

多摩は自然が多く、公園、雑木林もたくさんあります。身近にある木の実なども目線を変えるとステキな飾りやアートになること、それぞれの公園で活動する森木会のこと、グリーンライブの園内整備をしている方々のことなども、この講座を通じて皆様に伝えられたらと思います。

コロナ流行がいつまで続くのか判りません。そこでリース作りの講座も形を変えていかなければと思います。広く皆さまにご参加いただける様、工夫も必要だと考えます。

現在は何度か講座に参加経験のある方々が申し込みされていると思います。作ってみたいけれどよく解らない方を対象に少人数で作り方をお知らせできる機会も作っていただけると、また年々増える参加者にも対応が必要です。現在募集は往復ハガキです。

これからも皆様と共にこの活動を通して、多摩のみどりのことなどを伝えていけたらと思います。



作りたいリースのイメージに合わせて、飾りを選ぶのも楽しい



どうやって作っているのかしら

## ～多摩のみどりのかわら版～

## 歩き続ける限り

多摩市 環境部 公園緑地課 會田 勝康

皆さんこんにちは、令和元年（平成 31 年）4 月よりグリーンライブセンター（以下 GLC と表示）で勤めさせていただきました會田です。3 月末日をもって 4 2 年間の市役所勤めも満了となります。4 月からの後任者はまだ誰になるかはわかりませんが、引継ぎは遺漏のないようにしてまいりますので私同様どうぞよろしく願いいたします。

さて、私は最後の職場となりました GLC では庭園のバラや様々な植物を通じて四季の移ろいを感じながら仕事させていただき幸運に恵まれたと思っております。また、そのような環境の中で多摩市グリーンボランティア連絡会、恵泉女学園大学の皆様と一緒に楽しく仕事をさせていただきただけでしたことに感謝申し上げます。

GLC では様々なみどりに親しむ講座が開催されていますが、とりわけグリーンボランティア初級講座、中

級講座、森木会運営会議等の機会を通じて雑木林、公園などのみどりの管理に勤んでおられるグリーンボランティアの方々やこれからそれに参加されようと研修を受けられる方々の熱意や真摯な活動を実際に目で見て、お話を伺うことができるなど、無論仕事を通じての上だけであり、グリーンボランティア活動のほんの一端ではごさいましょけれども触れることができた貴重な3年間でごさいました。

また、GLC のみどりもスタッフだけでなくボランティアの皆様に支えられているということを新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナと表示）予防のための休館期間（令和2年3月27日～5月31日）を通じて痛感いたしました。

皆様に管理いただいている緑地の状況も活動自粛期間中はさぞやだったと拝察いたします。

以来、新型コロナの度重なる流行が今日まで続いている中でも皆様が感染予防に留意されながら緑地の保全活動を継続されたことにより、ナラ枯れのまん延などの新たな課題も出てきていますが、お陰様で引き続き、多摩市の良好なみどり環境が継続されていることに公園緑地課に籍を置く職員として私からも御礼申し上げます。

そのような中で多摩市にとっては初めての取り組みとなる Park-PFI 事業が多摩中央公園で始まろうとしています。公園利用者の利便の向上につながる施設を民間資本により整備し、その施設から生じる収益を公園改修整備に充てる等、快適な空間が形成され、中央公園が生まれ変わることでしょう。改修後の概要は、新たに作られるカフェレストラン「ケヤキハウス」、フラワー&ベーカリーカフェだけでなく、旧富沢家や東樹林地等を活用した里山体験を企画したり、プレーパークや様々な遊具の設置もされるようです。

#### 表紙の絵

#### 「タマノカンアオイ」絵・内城葉子

花は黒紫色で葉に隠れて咲く地味な花です。名前は多摩丘陵で発見された由来によります。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

整備後の公園内各所では多様なイベントや企画、大小のマルシェの開催、さらにこれまでにないような公園利用などを企画していくと伺っています。

そして GLC も含む多摩市関連課、地域企業、地域大学、市民団体等からなる連絡協議会が設置され、皆が連携したイベントや各種の取り組みを行うなどして多摩中央公園の魅力度アップと活性化を実現し、多摩市のさらなる発展に寄与するなどクリエイティブ・キャンパスパークと称する両手でも抱えきれないような大きな夢が描かれています。

そのような中で、GLC の施設も公園改修とあわせ、令和5年の春から工事を行い令和7年1月にリニューアルオープンする予定です。GLC の魅力度アップだけでなく、他の施設やイベント等との連携がこれまで以上に求められていくことになると思われます。工事期間中の仮移転地や諸事業継続に向けての検討など至急詰めていかなければならないこともまだまだございですが、これまで以上に多摩中央公園の中の主要施設の一つとしての役割を十分果たしていくことが求められております。

より良いものを目指して恵泉女学園大学、多摩市グリーンボランティア連絡会、多摩市の三者がより一層一同として取り組んでまいることになると思われますので、三者での十分な協議調整は継続してまいります。何よりも皆様のご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



會田さんとの3年間は、楽しくてあっという間でした。お世話になり、ありがとうございました！（事務局より）

#### 多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 45 号

発行日：2022 年 3 月 25 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局  
〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園  
多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tgic/>